

2019/01/06

「イエス様の姿」

私たちは、イエス様のどのような姿を見ているのでしょうか。「主は素晴らしい」とほめたたえ、主のように生きたいと願っているならば、それは具体的にどのような生き方なのでしょうか。イエス・キリストの生涯を知れば知るほど、それは、決して人からあこがれられるようなものではないことがわかります。私たちがほめたたえているイエス様とはどのようなお方かを知り、自分自身の生き方を考えてみましょう。

■イエス・キリストの誕生

イエス・キリストの誕生を最初に告げられたのはマリヤです。マリヤは自分が救い主をみごもったと聞いて、次のように答えています。

「主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。」(ルカ 1:48)

マリヤは、決してへりくだってこのような告白をしたわけではありません。マリヤも、そして夫となるヨセフも、当時のユダヤ社会では最も低い身分に属していたのです。

イエス様は、この世で最も低い身分をお選びになりました。あなたは、社会で最も低い身分になることを望むでしょうか。キリストをほめたたえ、キリストにあこがれるというならば、その低い身分にあこがれを抱くでしょうか。

「男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」(ルカ 2:7)

これは有名なクリスマスのシーンですが、マリヤとヨセフは、生まれたばかりのイエス様を、家畜が餌を食べる飼葉おけに寝かせました。赤ちゃんを寝かせるには、非常に不衛生な環境だと言わざるを得ません。この世界の中で、生まれたばかりの我が子を家畜の餌入れに寝かせなければならないほど貧しい人がどれほどいるのでしょうか。また、このことはマリヤとヨセフには社会的な後ろ盾がまったくなかったことを教えています。初めての出産なのに、手伝ってくれる人も助けてくれる人もいなかったのです。

この世では、皆、強くなることを願い、立派な人を目指し、人々から尊敬されたいと願っています。あなたは貧しくなることを願うでしょうか。弱さを願うでしょうか。しかし、神の子であるイエス・キリストは、初めから貧困と弱さを選んでこの世に来られました。イエス様は、社会の底辺で誕生し、生まれながらに弱さを担う状況にあったのです。ですから、この世の見方では、イエス様はまったく賞賛されません。私たちは、イエス様の何を賞賛し、どこにあこがれると言うのでしょうか。

■イエス様の公生涯

「みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた。そしてまた、「この人は、ヨセフの子ではないか」と彼らは言った。」（ルカ 4:22）

「これらのことを聞くと、会堂にいた人たちはみな、ひどく怒り、立ち上がってイエスを町の外に追い出し、町が立っていた丘のがけのふちまで連れて行き、そこから投げ落とそうとした。」（ルカ 4:28-29）

大人になったイエス様が会堂で神の言葉を教え始めると、人々はその教えの内容に驚嘆しましたが、幼い頃からイエス様を知っている人々はイエス様を侮り、憤って殺そうとまでしました。

あなたは、家族や友人たちから侮辱され、殺されそうになるほど迫害される生き方に、あこがれを抱くでしょうか。誰もが、そんな生き方はいやだと思うことでしょうか。それなのに、なぜイエス様をほめたたえるのでしょうか。いったい、イエス様の何をほめたたえるのでしょうか。

「すると、イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢があるが、人の子には枕する所也没有。」」（ルカ 9:58）

イエス様には、安心して眠る家もなく、財産どころか持ち物らしいものは何一つ持っていませんでした。あなたは、そのようになりたいと願うでしょうか。それをほめたたえるのでしょうか。

さらにその後、イエス様が真実を語れば語るほど、多くの弟子がイエス様から離れていき、ついには弟子の一人に裏切られ、十字架刑に処せられて、すべての弟子に裏切られてしまうのです。

あなたはこのような人々の裏切りに遭う人生を生きたいと望むでしょうか。自分が愛し、慕い求める人たちから裏切られ、否定される人生を送りたいと思うでしょうか。

イエス様ほど、人々から否定された人はいません。それが十字架に架けられる前の裁判に表れています。

「兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、それから、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」と叫んであいさつをし始めた。また、葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり、ひざまずいて拝んだりしていた。彼らはイエスを嘲弄したあげく、その紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエスに着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。」（マルコ 15:16-20）

私たちが造った神でありながら、さらし者にされ、バカにされるという、ここまで自分の存在を否定された人がいたでしょうか。人は誰でも大切にされること、尊敬されることを求

めます。誰もイエス様のような人生を送りたいと願わないはずです。

「彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。」（イザヤ 53:2-3）

まさにこれがイエス・キリストの生涯です。人々からののしられ、蔑まれ、誰からも尊敬されず、弟子にも裏切られる……。誰もがこんな人生は嫌だと叫ぶでしょう。なぜイエス様はこのような人生を選んだのでしょうか。

■イエス様の人生の意味

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。」（イザヤ 53:4）

イエス様が、誰よりも低く、誰よりも否定された人生を送ったのは、あなたの後ろに立ってあなたを支え、前に押し出すためです。イエス様は人々の前に立って「さあ、立派な私を真似して生きなさい」と言っているのではなく、あなたを後ろから押したいと願っておられるのです。

もしイエス様が、能力、地位、財産、権力のすべてを持ち、人々のあこがれの存在であったとしたらどうでしょうか。人々から羨ましがられ、尊敬され、誰もイエス様を迫害したりせず、十字架に架けられることもなかったでしょう。そして、人々からほめたたえられ、「少しでも恵みに預かってああいう人になりたい」と言われ、その死後も「あんな偉大な方はいなかった」と語られたことでしょう。

しかし、それでは、イエス様はあなたとは遠くかけ離れた存在になってしまうのです。あこがれは嫉妬の裏返しです。私たちはイエス様を見て「あんなふうになりたいけど、どうせ私はダメな人間だ」と、自分を否定することになってしまいます。

イエス・キリストは、決してそういう存在ではありませんでした。イエス様の生涯を知った私たちは、イエス様は痛みをわかってくださる方だということを知ります。だから、安心して共に生きていくことができるのです。イエス様は私たちにとって、あこがれの遠い存在でも、ほめたたえられる方でもなく、共に生きる方なのです。そのためにイエス様はすべてを捨てて、自ら低くなり、私たちの下にご自分を置かれました。こうして、私がいるから安心なさいと言って、私たちを後ろから力強く支えてくださっているのです。

これがイエス・キリストです。そのことを知った上で、イエス・キリストにあこがれるなら、それは素晴らしいことです。もし自分はダメだと思ってイエス様のようになりたいと願っているなら、その思いは間違っています。

■イエス様のように生きる

イエス様を賛美するなら、イエス様のように生きましょう。それは、真実な自分と向き合う生き方です。真実を語った結果、イエス様は迫害されました。自分の真実な姿を人に見せると、必ず迫害されます。なぜなら、私たちは人と比較して自分の価値を求めるため、心の内側は人を見下す思いや嫉妬で満ちているからです。

たとえば私たちは、テレビの中の人に対しては、「バカみたい」とか「変なの」と言うことができます。いざ本人を目の前にしたら、決してそんなことは言わないものです。つまり、人前では良いことを言っても、陰では悪口を言うような人間なのです。人は皆、人に知られたくない自分を持っています。もし本当の姿をさらけ出したら、軽蔑され、嫌われ、迫害されてしまうことでしょう。だから、必死に自分を隠すのです。でも、それは真実から目を背けているに過ぎません。

イエス・キリストは、真実と向き合う生き方を私たちに示してくださいました。ですから、イエス様を目指して生きる私たちも真実な自分の姿と向き合わなければなりません。勇気をもって自分の真実な姿と向き合うなら、自分のみじめさを知って絶望し、そうすることで、イエス・キリストに助けを求めることができるようになるのです。

イエス様は、「立派な私のようになりなさい」とは言われませんでした。「もっと頑張れ」とあなたを応援しているわけでもありません。むしろイエス様は、あなたを支えるため、あなたを引き上げるため、低くなったのです。イエス様が弟子の足を洗われたのは、自ら低くなったことを示すためです。イエス様は、あなたがつらいなら助けてあげると言っておられるのです。ですから、自分のみじめさに絶望する時、イエス様の生き方を知っていれば、心の底から「イエス様、助けてください」と求めることができます。これが私たちとキリストとの関係であり、イエス様と生きる真実な生き方です。

「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。」（ヘブル 12:2-3）

イエス様は、私たちと同じ苦しみを受けられました。ですから、絶望する私たちに対して、「私もその中で生きてきたから心配するな、私がいっしょにいる」と、励まし、慰めることができるのです。この世で立派だと言われる人には、自分はダメだと思う人を、本当の慰め励ますことはできません。イエス様は、私たちを理解するために罪人の一人になり、嫌われ、迫害されました。それはあなたを愛しているからです。イエス様がご自分を低くなさったからこそ、すべての人をあがない支える力があるのです。それが十字架です。

私たちが目指すのは、イエス様のようになろうと頑張ることではなく、真実に目を向けることです。その結果、絶望を体験し、神が私たちを弁護してくださることを知り、神なしでは生きられないと知ることが、私たちの目指すところなのです。

イエス様は、決して、高いところから「こっちにおいで」「上を目指して頑張きなさい」と励ます方ではありません。あなたの後ろにまわって支える方です。すべての人が絶望の中にあってどうすることもできないと苦しんでいることを知っておられ、正直に生きても、私がいるから大丈夫だと安心させてくださる方なのです。

イエス様のことをほめたたえるのではなく、イエス様の生き方を知り、イエス様のように生きることを願いましょう。「イエス様のように有名になりたい、慕われる人間になりたい」と願うのではなく、「イエス様のように自分の真実な姿と向き合いたい」と願って生きましょう。そうすれば、こんな私でも愛してくれる方がいると知り、心が癒される体験ができ、神が共に生きてくださることの意味を知ることができます。これが、私たちが目指す生き方です。